

国内経済情勢

概 観

国内需要は個人消費、設備投資を中心に着実な拡大を示し、生産・出荷は増加基調を続けている。この間、9月の商品市況は非鉄や石油化学を中心に続伸し、卸売物価も国際商品市況の統騰や国内需給の堅調などを背景に引続き大幅上昇を示した。一方、消費者物価(東京)は主として季節的要因からかなりの上昇を示したが、前年比上昇率ではほぼ前月並みとなった。

金融面をみると、8月の全国銀行貸出約定平均金利は前月に比べ上昇幅を拡大した。

8月の国際収支は、貿易収支、経常収支とも季節調整後ではほぼ前月並みの大幅赤字となったが、長期資本収支が対日証券投資の増加等から流入超となったため総合収支の赤字幅は縮小した。9月の為替相場は前月に続き小幅の円安となった。

生産は増勢持続

8月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比*、速報)は、+0.3%と小幅ながら5ヵ月連続の増加を示し、一方出荷(速報)は、前月増加のあと-0.2%の微減となった。この間、生産者製品在庫(速報)は横ばいとなった。

* 以下増減率は特に断らない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

8月の財別生産・出荷の特徴をみると、消費財

の生産、出荷が家電製品(エアコン、冷蔵庫)、繊維二次製品を中心に減少し、生産財も中国向け鉄鋼輸出の停滞を主因に出荷減となったが、一般資本財(金属加工機械、化学機械等)や建設財(鉄骨、アルミサッシ、セメント等)は設備投資の拡大や官公需の増加を映じて生産、出荷とも増勢を持続した。

この間、製品在庫は、出荷好調の一般資本財、建設財が大幅に減少した反面、需要期を控えた石油製品や出荷低調の一部家電製品(エアコン、冷蔵庫)では前月に続きかなりの増加を示した。

国内最終需要の動向をみると、8月の公共事業契約額(前年比)は+10.7%と引続き増加し(前月+13.7%)、9月の公共事業請負額(前年比)も+14.1%と高い伸びを示した(前月+18.4%)。

設備投資動向については、8月の機械受注額(船舶・電力を除く民需)は前2ヵ月大幅増加を示した製造業からの受注減を主因に-12.9%の減少となった(前月+7.5%)。

消費面では、8月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、夏物衣料がやや持直したほか、家具、レジャー・スポーツ用品、食料品等の堅調もあって+8.0%と前月(+6.5%)に比べ伸び率をやや高めた。9月の耐久消費財の売行きをみると、家電製品はカラーテレビ、ステレオなどを中心に好調に推移した。また、9月の乗用車新車登録台数(速報)は売行き好調の前年を1.6%上回った。

雇用情勢をみると、8月の完全失業率は2.23%

と小幅ながら低下した(前月2.26%)。一方、有効求人倍率は0.73倍と前月と同水準となった。

卸売物価の騰勢続く

9月の商品市況をみると、製材等一部に軟化する品目もみられたが、石油化学(塩ビ、高圧ポリエチレン)、条鋼類(棒鋼、H形鋼)などが小幅続伸商状を示したほか、海外高を映じて非鉄が急騰し、石油製品も月央以降強含みとなるなど、総じて騰勢を持続した。

9月の卸売物価は、+1.4%と引続き大幅上昇を示した(前年同月比+12.6%)。品目別には、国際商品市況の続騰や為替相場の円安化から非鉄などの輸入品が大幅に上昇したうえ、国内品も需給堅調を背景に海外高の波及が進行したため石油関連品を中心に続伸した。

9月の消費者物価(東京、速報)は、衣料品の秋冬物への入替えに伴う上昇のほか、野菜や灯油、タクシー代等の値上りもあって+1.6%とかなり上昇したが、前年比上昇率は+2.8%とほぼ前月(+2.6%)並みとなった。

貸出金利の上昇幅拡大

9月の金融市場をみると、銀行券は1,937億円の発行超(前年同671億円)となり、月中平均発行高(前年比)は+11.7%とほぼ前月(+11.6%)並みの伸びとなった。一方財政資金については、地方交付金の支払増などから一般財政の払超幅が前年を上回ったものの、国債発行額が前年比大幅増加をみたため、1,752億円の払超と前年(同2,585億円)に比し払超幅をやや縮小した。この結果、月中の資金不足額は316億円(前年、余剰1,604億円)となり、市場地合いは通月小絞り気味に推移した。こうした状況を映じて、コールレート(無条件物、中心レート)は月中小幅の上昇を示したが、

地方交付金の支払われた月末には前月末の水準(6.75%)にまで低下した。この間、手形売買レート(2山越)は通月横ばいで推移した(月末7.0%)。なお、短期金融市場取引の弾力化措置の一環として手形売買市場で2山越手形レートの建値が10月16日以降撤廃されることとなった。

8月の全国銀行貸出約定平均金利は+0.192%と前月(+0.104%)に比べ上昇幅を拡大した。この間、8月のマネーサプライ(M₂+CD平残、前年比)は+11.9%と前月並みの伸びとなった。

9月の公社債市況は、月央にかけて農林系統機関や事業法人からの買い引合いがみられ小幅上伸したが、その後はおおむね保合いで推移した。一方株式市況は、前半もみ合いのあと月央以降物色人気に支えられて上伸歩調をたどった(東証指数月末465.24、月中+11.13)。

貿易収支は引続き赤字

8月の国際収支は輸入の増すうから貿易収支、経常収支(季節調整後)ともほぼ前月並みの大幅赤字となった(各208百万ドル、1,071百万ドル)。なお季節調整前の経常収支は1,532百万ドルと既往最高の赤字を記録した。この間、長期資本収支は対日証券投資の増勢持続などから1年5ヵ月ぶりに流入超となり、総合収支は387百万ドルの赤字と前月(同1,002百万ドル)に比し赤字幅を縮小した。

8月の輸出(通関、ドルベース)は前月減少のあと+1.5%の増加となり、数量ベースでも再び前年水準を上回った(前年同月比+1.9%、前月同-0.9%)。品目別(ドルベース)には、鉄鋼が中国向けを中心に引続き減少したものの、家電製品(テレビ、ラジオ等)、二輪自動車がかんりの増加を示したほか、自動車も高水準を持続した。

一方輸入(通関、ドルベース)は +7.6% と大幅増加を示し、数量ベースでも高水準の伸びを続けた(前年同月比 +11.2%、前月同 +14.5%)。品目別(ドルベース)には、原油が価格の大幅上昇に加え数量の持直しもあって前月に続き著増したほか、食料品(とうもろこし、魚介類)、鉄鋼原料

(鉄鉱石、石炭等)、繊維原料(綿花、羊毛)などもかなりの増加を示した。

9月のインターバンク米ドル直物相場は月中3円40銭の円安となった(月末223円45銭)。

(昭和54年10月12日)